

夢咲楽

～和輪話通信～

- 望ましい親子関係を………1
- 食べものにまつわる思い出……4
- 子どもを育てる!シリーズ1 お便り紹介
- 楽しく役立つ「地域安全マップ」を作りませんか………2 ご当地クイズ
- 「子どもを守る!」を振り返って マスミ先生のワンポイントアドバイス………3



国立きぬ川学院での研修

食べものにまつわる思い出

忘れられない味



私が子どもだった頃、祖父が隠居していた。そこにはいつ行っても何らかの食べものがあった。その中でも忘れられない味がある。それは鰹の切り身を炭火で焼いて生姜醤油に一晚漬けた一品で、おにぎりと一緒に食べた記憶がある。まだ冷蔵庫のない我が家で鰹を二匹買って、父が出た包丁で捌くのだが、刺身切り身、塩辛など自家製で作る。食べ切れないと井戸に吊るして置く事もあった。

元漁師をしていた祖父には多くの漁師仲間がいて、捕れた魚を持って来て、漁場や漁具の話をして楽しそうだった。今でも魚を食べる時思い出言葉がある。「漁師は魚を命がけで捕ってくる。伝馬船の船底、板一枚下は地獄なんだ。だから魚を食べる時は残さないと感謝して食べなさい」と言う教えた。祖父や父が行っていた魚捌きも私には行うチャンスが少なく、鳥賊の塩辛を作るくらいである。鳥賊の皮を剥きながら食べる人の辛さを思い浮かべて作る。味は作る人の愛である。家庭や地域の食文化を大切に腹八分目を守りたい。わわわ隊 渡邊能辰

お便り紹介

ご意見ご感想ありがとうございます。

意識せずに使っていた言葉が実は方言で「東京の人」に通じなかったときはちょっとショックでした。(鷹宿 Nさん)

ご当地クイズの当選者に市外の方がいらして、多くの方が目を通していただくと感じました。嬉しいことですね。(下河戸 Tさん)

ご当地クイズに挑戦しました。むずかしかったです。お父さんやお母さんに聞きました。(桜野 Aさん)

もう40年も前ですが、「食べものにまつわる思い出」を読んで、風邪を引いたときにやはり母が林檎をすりおろし器ですりおろして食べさせてくれたことを思い出しました。甘くて汁まで飲んで元気になったことも度々ありました。そしてたまに病気のときに、貴重なバナナも買ってもらった思い出もありますね。(氏家 Nさん)

「ガンバレ若者たち」について、これからの時代になう努力をしている若者、私も同感です。私もそういう若者を応援している一人です。(矢板市 Kさん)

子どもの高校の関係で、この広報紙を読ませていただいています。今まで、関心を示さなかったこの地域がとても身近に感じられ、毎回楽しく読ませていただいています。(矢板市 Tさん)

夢咲楽を読みました。一番思うことは子どもたちを大事にすることだと思います。(穂積 Sさん)

ご当地クイズ



出雲の方言と栃木の方言がわかりますか?

方言にあう標準語を下から選んで、あてはめてみよう。

解説 寒かった冬も終わり、暖かくなり始めた日の会話です。

ヤマちゃん もうじき、春だね、**0**のく～なるね。

フクちゃん そうだね、**0**ちんころたんころの芽がでていたよ。

ヤマちゃん 去年は**0**えらいおせごとがあつて、**0**おべたね～。

フクちゃん **0**おらげもいろいろ**0**ぼっこれたよ。蔵が**0**ちゃぶれたんだ。

ヤマちゃん **0**えまんころは、みんな**0**ちよんぼしずつ元気になりましたね。

フクちゃん 今年の春は、**0**おしゃらくして花見にいくべ。

- 標準語** A.ねこやなぎ B.この頃 C.大変恐ろしいこと D.おしゃれ E.暖かく F.少し G.驚いた H.つぶれた I.我が家 J.壊れた

クイズの答え

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10

- 当選者発表** 青木 美月様(桜野) 黒川 保二様(矢板市)
白井 裕美様(穂積) 瀧川真由美様(矢板市)
田代 美子様(下河戸) 中村真理菜様(鷹宿)
永井 正様(氏家) 長沼 正浩様(卯の里)
村上 和奏様(氏家) 山形 勇介様(松島)

次のゆめさくら～わわわつうしんは平成24年7月上旬に発行予定です

あとがき

季節はよいよ春を迎え、年度切り替えの忙しい時期となりました。和輪話通信も今年度最後の発行となりますが、「子どもを守る!」シリーズを3回にわたって掲載し、たくさんのご意見、ご感想をいただきました。日頃から市民のみなさんが、子どもたちの安全・安心に目を向けているのだと思います。また、地域ボランティアの子どもたちの見守り活動には、改めて感謝いたします。

私たち少年指導員も、市民のみなさんと協力して、安全・安心な地域づくりに努めていきたいと考えています。

今後とも、和輪話通信をご愛読いただき、ご意見ご感想をお寄せくだされば幸いです。

広報啓発班 飯島 満



わわわ隊の亀田さんの紙芝居 (喜連川図書館、毎月第2・第4土曜日)

望ましい親子関係を

1月25日(水)国立きぬ川学院へ研修に行き、話を聞きました。きぬ川学院は児童福祉法に基づき国立の「児童自立支援施設」です。子どもたちは少人数ずつ寮に分かれて入り、担当の夫婦の専門職員と起居を共にします。そして家庭的な雰囲気の中で、社会生活を送る上で必要なことを学んでいます。彼女たちが非行に陥ってしまった背景には、いったい何があつたのでしょうか。

親には子どもを育てていく喜びがある反面、相応の重責がある事を痛感しました。一つ間違えるとその後の人生を狂わせ、親子共にいばらの道を歩む事になりかねません。常に愛情を持って接し、善悪を論じ抱きしめる。子どもの試し行動にきちんと向き合い、答えを出しながら子の目線に対応していきたいものです。

彼女たちが求めていたのは、やはり母の愛情だったのです。母子関係の歪みが招いた不幸な結果でした。それぞれが抱えていた苦悩する心の闇を垣間見た様な気がしました。

「犯した罪をただ責めるだけではなく、根底に潜む真の理由を聞き取ってあげる事が、再犯を防ぐ大事な鍵です」と課長さんは話してくれました。

子育ての根本は、人間形成に欠かせない大切で、望ましい親子関係を保ち、愛情を注いで正しい方向へ導いていくことではないでしょうか。

わわわ隊 見目春江

子どもを育てる！シリーズ1



喜連川小学校のオープンスペースに、給食をすませた子どもたちが三々五々集まってきました。お手玉、おはじき、折り紙、コマ、将棋盤、オセロなど。たくさんの昔遊びの道具が並んだテーブルに駆け寄り、待ち構えていたボランティアさんと楽しそうに遊びだします。すぐに笑いがはじけ、歓声があちこちから聞こえてきました。「上手、上手!」「惜しい!」「あ～残念」30分のお昼休みはあっという間に過ぎていきます。

喜連川小学校では、地域の大人のみなさんが応援ボランティアとして、いろいろな場面で学校や子どもたちと関わっています。今回取材したみなさんは「昼休み遊び隊」。毎月第一、第三月曜日の昼休みに定期的

に活動しています。活動を始めて早一年半。子どもたちもこの「昔遊びの時間」をととても楽しみにしているそうです。中には折り紙を習っていて途中で終わってしまったからと、2週間後にそのまま未完成の折り紙を持ってきて、続きをねだった子もいたそうです。すっかり顔なじみですね。

ボランティアのみなさんもこの時間を大切にしています。忙しいけれど、可愛い子どもたちのためにと、何とかやりくりをつけて集まってくださっています。仲間と会うのも楽しみの一つだとか。「子どもたちから元気をもらっています」「生活の一部となっています」とにこやかに話してくれました。

みなさんの夢は広がります。今後の目標としては、子どもたち自身が、遊び道具を作ることが出来るよう、手伝いが出来ればと考えているそうです。身近な材料を使って、道具を使いこなしながら遊び道具を作る体験をさせてやりたい、刃物などの危険な道具も「危ないから」と遠ざけるのではなく、安全な使い方をマスターさせてあげたいと考えているそうです。与えられた道具で遊ぶだけでなく、自分で考えて、自分の手で、独創的なおもちゃが出来るようになると良いなどの思いからだそうです。手先が不器用な子、飽きっぽい子、根気の無い子を見るにつけ、そんな思いが高まってきたようです。

「一緒に遊んでいるときは昔の子も今の子も一緒」と笑いながら、「まるで自分の孫のようだ」という子どもたちのために、地道な活動を続けてくださっています。「地域の子どもは地域で育てる!」と言う、みなさんの熱い思いが伝わってきたインタビューでした。

わわわ隊 加藤朋子

「子どもを守る!」を振り返って

このシリーズでは、子どもたちを守るための活動をおこなっている団体の視点に立って、様々な内容をお伝えしてきました。

今回は、「子どもを守る!」に寄せられた感想を中心にしてお伝えします。

- ★フィオーレ地区の見守り活動をよく見かけます。雨の日や寒さの強い日もかかさず続けている姿に、子どもを持つ親としてとても感謝しています。これからも体に気をつけて、子どもたちのことをよろしくお願ひいたします。
- ★私も小学生の子どもがいるので、スクールガードさんの存在がとても頼もしくありがたいと思っております。暑い日も寒い日も早くから頑張っておられるみなさまに、この場を借りてお礼申し上げます。
- ★地域の方々が子どもたちの下校を見守ってくださっていると安心ですね。
- ★スーパーでピンクのジャンパーで活動される方々を見ました。わわわ隊の方々だったのですね。ありがたいなあと思いました。
- ★さくら市内をとりまく問題などあるのでしょうか。それらの問題に向かって、私たちの手助けや取り組みなどがあつたら紹介してほしいです。

このように、みなさんからの「感謝と激励」の内容が多いです。私たちも励みになります。さて、子どもたちを犯罪から未然に防ぐには、地域のみなさんと一緒に取り組むことが大切だと思います。

私たち「わわわ隊」の街頭巡回は、上から指導をするのではなく、子どもたちと同じ目線に立って声かけを中心に行ってきました。今まで下校の見守りや、大型店舗での啓発チラシ配布などを行ってきましたが、11月に初めて深夜時間の23時に実施しました。この時間は、ちょうどJR氏家駅に下り最終電車が到着する時間です。しんと冷える夜でしたが、一人ひとりに声をかけました。

わわわ隊の活動も間もなく5年目を終えようとしています。今まで、「ケータイ」や「ネット」に関する講座、自転車の盗難防止活動、地域安全マップづくり、広報啓発活動や各種体験活動などを行ってきました。これからはもっとさまざまな活動を、さくら市の子どものために行いたいと考えています。そのためにも、子どもたちをとりまく環境に、まわりの大人がより関心を持ってほしいと思います。そして、一人でも多くの方が、「わわわ隊」に入ってくださいと嬉しいです。一緒に活動しませんか?

わわわ隊 福田克之



楽しく役立つ「地域安全マップ」を作ませんか

私たち青少年センターでは、子どもたちの安全のために「地域安全マップ」づくりを実践しています。

それは毎日の登下校の道やお友達と楽しく遊ぶ公園等を実際に歩いてみて、犯罪が起こりやすい場所の判断基準である「入りやすい場所」と「見えにくい場所」という2つのキーワードに照らして、危険な場所を自分たちで見つけ、それを地図の中に記入して地域に潜む危険を発見し、被害にあわないための「地域安全マップ」づくりをお友達と楽しく学習することです。みなさん、ぜひ一度作ってみてください。

わわわ隊 中谷 清

申し込み・問い合わせ さくら市青少年センター TEL 686-6621

右の写真は、昨年の12月に氏家公民館で行われた、青少年センター事業「みんなで作ろう!地域安全マップ」の様子です。

上 街にでて、入りやすく見えにくい場所を見つけています。
下 見つけてきた危険な場所を模造紙に書き込んでいます。



マズミ先生のワンポイントアドバイス



ネットゲーム依存の心理

ネットゲームにはまってしまった人たちの、ふたつに大別して原因と対策を考えてみたいと思います

①ひきこもった人が、ネットゲームにはまった場合

ネット依存ではなく、人間関係のスキル不足や過去の出来事から来る心理的な心の傷（不登校・会社拒否・ひきこもり）が背景にあり、それが原因で、後悔の感情や自信のなさが本人を支配しているものと考えられます。また、本人の活動力の源になるはずの家族関係にも問題傾向がみられるので、改善をしなければなりません。ネットゲームを続けているのは、むしろ、過去の失敗体験から来る「見捨てられ不安」があるからです。頭ごなしに叱るのではなく、本人の気持ちを理解するように聞き上手になって、気持ちを楽にさせることが重要です。

②ネットゲームが好きでひきこもった場合

自制心がなく、ゲームに依存している様子が見られます。このまま本人が望むように現状維持が続くと、ネットゲームの世界が全てのネット依存になってしまう可能性が高いと考えられます。少しでも、「学校や会社に行かなければならない」という気持ちがあるうちに、ネットゲーム依存であることを告げ、ゲームを制限していくための話し合いをしてください。